

平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成28年8月10日
栃木県農業環境指導センター

ニホンナシハモグリダニ（仮称）の発生について

1 害虫名：ニホンナシハモグリダニ（仮称） *Eriophyes* sp.

2 発生作物名：ニホンナシ

3 発生経過

平成28年6月上旬に県北部地域のニホンナシ栽培園において、葉に火ぶくれ症状が発生し、その周辺及び内部にフシダニ科の寄生が認められた。

横浜植物防疫所を通じて法政大学生命科学部上遠野富士夫元教授に同定を依頼した結果、ニホンナシハモグリダニ（仮称）と同定された。なお、本種の和名「ニホンナシハモグリダニ（仮称）」は平成26年に上遠野富士夫元教授により提唱されている。

現時点における発生は、発生が確認されたほ場の一部に限られており、近隣ほ場では同様の症状の発生は認められていない。国内における本種の発生は、神奈川県（平成24年）と長野県（平成27年）の特殊報により報告されている。

4 被害の特徴

葉では、本種が寄生した部分は葉表側にやや膨らんだ火ぶくれ症状を呈し、その内部に本種が確認される。火ぶくれ症状は、葉表では、被害が進むと黄色～茶褐色に変色し、葉裏では暗褐色に変色し、微小な開口部が見られ、その周辺でも本虫が確認できる。果実では、長野県の特殊報によって、幼果で葉と同様の火ぶくれ症状が形成されることが報告されている。



図1 ほ場での被害状況



図2 火ぶくれ症状（葉表）



図3 火ぶくれ症状（葉裏）

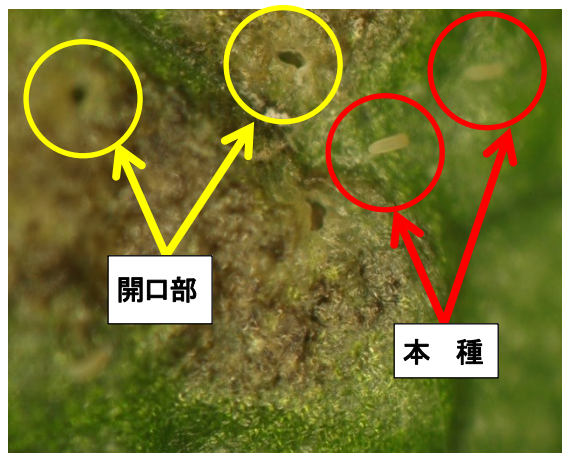


図4 葉裏の開口部周辺のニホンナシ
ハモグリダニ



図5 火ぶくれ症状内部とニホンナシ
ハモグリダニ

5 形態及び生態

成虫は体長 0.2mm で淡黄色のうじ虫型。卵は球形半透明。

生態については不明な点が多い。神奈川県の特報によると、本種は芽の中で越冬、発芽とともに芽から脱出、葉に火ぶくれ症状を引き起こし、虫体はこの火ぶくれ症状の内部に生息して、暖かい時期には葉裏の開口部から外に出て、新たに被害を及ぼすものと推察されている。

6 防除対策

- (1) ニホンナシにおいて本種に適用のある農薬はない。
- (2) 火ぶくれ症状のある葉は、摘みとって埋却するなどして早期に処分する。
- (3) 本種の被害拡大を防ぐため、発生園地では穂木等の譲渡は行わない。

詳細は、農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。